

2017 年度明治大学国際交流基金事業 外国人学識者招請アポイントメントプログラム  
実施報告書

招聘者：Ali Farazmand 教授 (Florida Atrantic University)

招聘期間：2017 年 7 月 2 日～11 日

2017 年度明治大学国際交流基金事業・外国人学識者招請アポイントメントプログラムを利用し、Florida Atlantic University の Ali Farazmand 教授を招聘した。Farazmand 教授は同大学の School of Public Administration に所属し、世界最大の行政学研究者の集まりであるアメリカ行政学会 (American Society for Public Administration) の重鎮教授として、*Public Organization Review*, *International Journal of Public Administration*, という二つの国際学会誌の編集長 (Editor-in-Chief) を務めるなど、国際的にも著名な行政学者である。

7 月 4 日に、主に大学院生と研究者向けの講義「Governance: The Good, the Bad, and the Ugly--and a Sound One」を行い、ガバナンス論を巡る歴史的経緯や近年の研究動向などについて詳細に解説を頂いた。講義終了後も約 1 時間にわたって大学院生からの様々な質問に答えるなど、大変熱心かつ丁寧な講義が展開された。

7 月 6 日は、学部長へ表敬訪問をした後、主に学部生向けの講義「Public Management: Change and Continuity」を行った。具体例を交えながら、官僚制論を中心とした Public Administration から Public Management への変遷とその多面的な評価についてお話しを頂き、Public Management に対する理解をより一層深める講義となった。

7 月 8 日には、本学を含めた国内の行政学研究者を中心にした研究会合を実施し、行政学研究や行政学・公共政策研究の国際化や、今後わが国でも大きく進展すると思われる学部・大学院教育の国際的な標準化に関して、世界の動向を含めた知見を得ることができた。

国際学術誌の編集長を務め、国連を含め多くの国際機関のアドバイザーも務める Farazmand 教授の招聘により、本学の研究者、院生、学部生にとって、学術面、教育面の双方において多くの貴重な示唆と刺激を受ける機会となった。毎回の講義では学生へ期待を込めた力強いメッセージを発して頂き、各回の受講生にとっても印象に残る講義となった。

菊地 端夫  
経営学部准教授

7月4日の講義の様子

